

## Ⅱ 研究内容

### 1 道徳の教科化

#### (1) 現状 ～道徳の時間の課題～

##### 形式的な指導

- ・読み物の登場人物の心情理解に偏った授業が多い。

##### 軽視されがちな授業

- ・教科書がなく、評価規準も明確にされていないため。

##### 道徳教育全体の位置付けがあいまい

- ・教育活動全体で取り組むなど、体系的なものになっていない。

#### (2) 改善 ～教科化へむけて～

- ①「特別の教科 道徳」(道徳科)として、教科に位置づける。
- ②目標を明確にする。→P5
- ③道徳教育の目標と道徳科の目標との関係を明確にする。→P5~P6
- ④道徳科の内容を発達段階に応じた体系的なものにする。→P7
- ⑤多様で効果的な指導方法へと改善する→P16~P29
- ⑥検定教科書を導入する
- ⑦成長を促すための、評価を充実させる。→P30~P34

○発達段階に応じ、道徳的な課題を児童生徒が自分自身の問題と捉え向き合う。

○問題解決的な学習、体験的な学習  
○地域素材や専門家との連携の重視

「考える道徳」

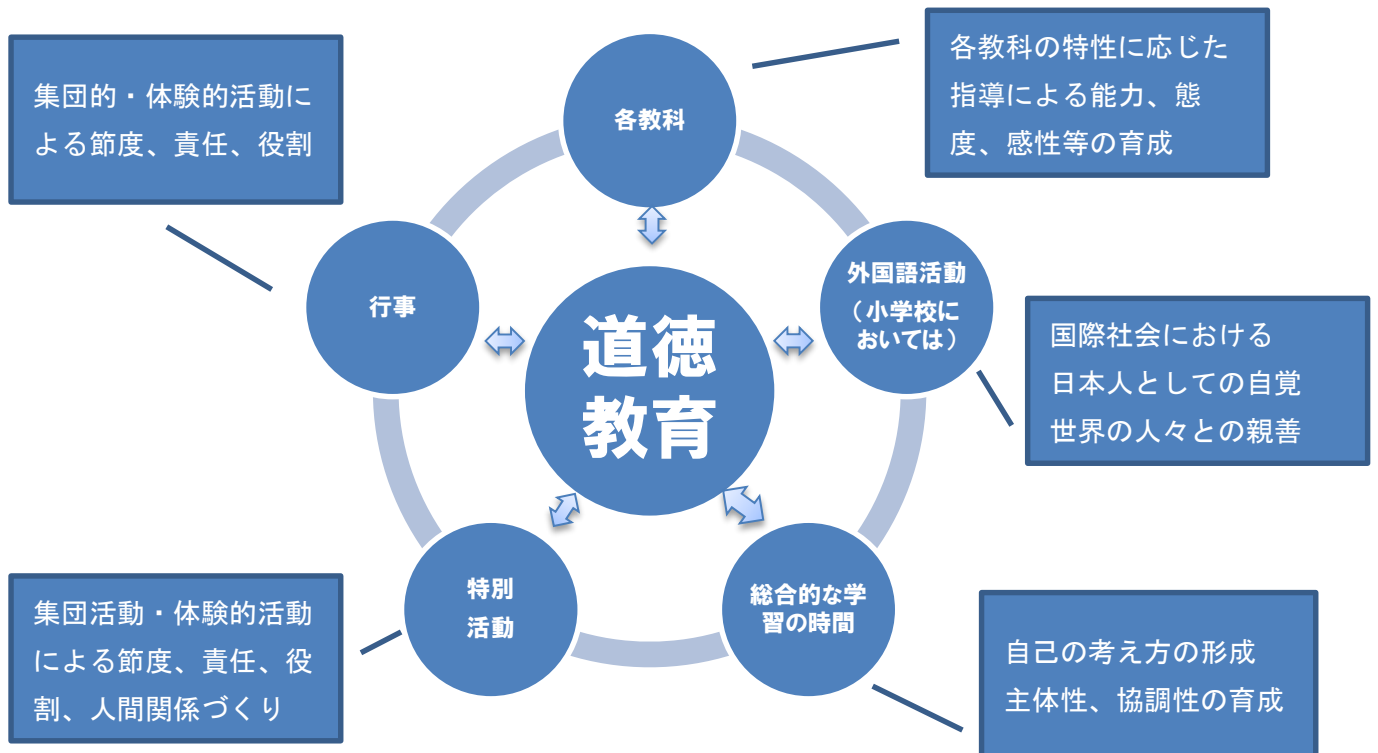
「議論する道徳」に転換

## 2 道徳教育の目標・道徳科の目標

道徳教育の「道徳科を要として、学校の教育活動全体で通じて行うもの」という考え方は、今後も大事なこととしておさえられています。道徳教育を通して、児童生徒の道徳性を養うことが大切です。

### (1) 道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと。 【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編】



## (2) 道徳科の目標

### ①小学校

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編】

### ②中学校

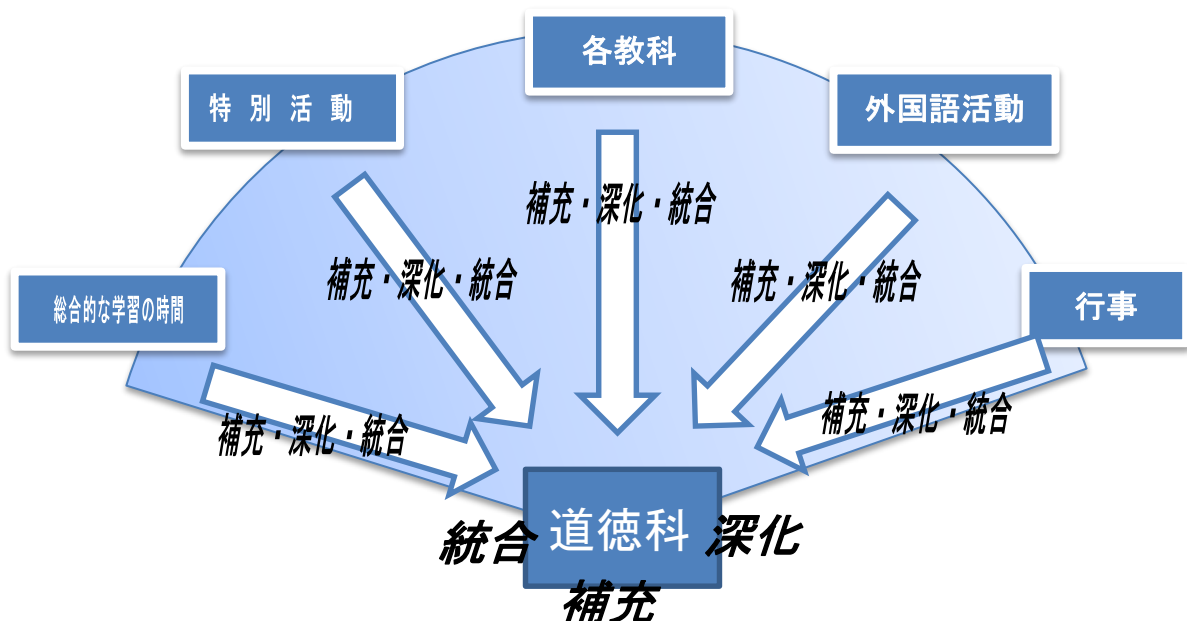
第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編】

よりよく生きるための資質・能力を培うという趣旨を明確にするため、これまでの道徳の実践力を「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」と具体化しています。

道徳的実践力

道徳的な  
判断力、心情、実践意欲と態度



## (3) 内容項目

### ①内容項目とは

道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育における学習の基本となるもの。

内容項目のまとまりを、児童生徒にとっての対象の広がり意識して順序を改めており、内容項目の手がかりとなる「正直、誠実」などのキーワードを付けています。

#### 小学校

##### A 主として自分自身に関すること

- ・善悪の判断、自律、自由と責任
- ・正直、誠実
- ・節度、節制
- ・個性の伸長
- ・希望と勇気、努力と強い意志
- ・真理の探究

##### B 主として人との関わりに関すること

- ・親切、思いやり
- ・感謝
- ・礼儀
- ・友情、信頼
- ・相互理解、寛容

##### C 主として集団や社会との関わりに関すること

- ・規則の尊重
- ・公正、公平、社会正義
- ・勤労、公共の精神
- ・家族愛、家庭生活の充実
- ・よりよい学校生活、集団生活の充実
- ・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
- ・国際理解、国際親善

##### D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

- ・生命の尊さ
- ・自然愛護
- ・感動、畏敬の念
- ・よりよく生きる喜び

#### 中学校

##### A 主として自分自身に関すること

- ・自主、自律、自由と責任
- ・節度、節制
- ・向上心、個性の伸長
- ・希望と勇気、克己と強い意志
- ・真理の探究、創造

##### B 主として人との関わりに関すること

- ・親切、思いやり
- ・礼儀
- ・友情、信頼
- ・相互理解、寛容

##### C 主として集団や社会との関わりに関すること

- ・遵法精神、公德心
- ・公正、公平、社会正義
- ・社会参画、公共の精神
- ・勤労
- ・家族愛、家庭生活の充実
- ・よりよい学校生活、集団生活の充実
- ・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
- ・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
- ・国際理解、国際貢献

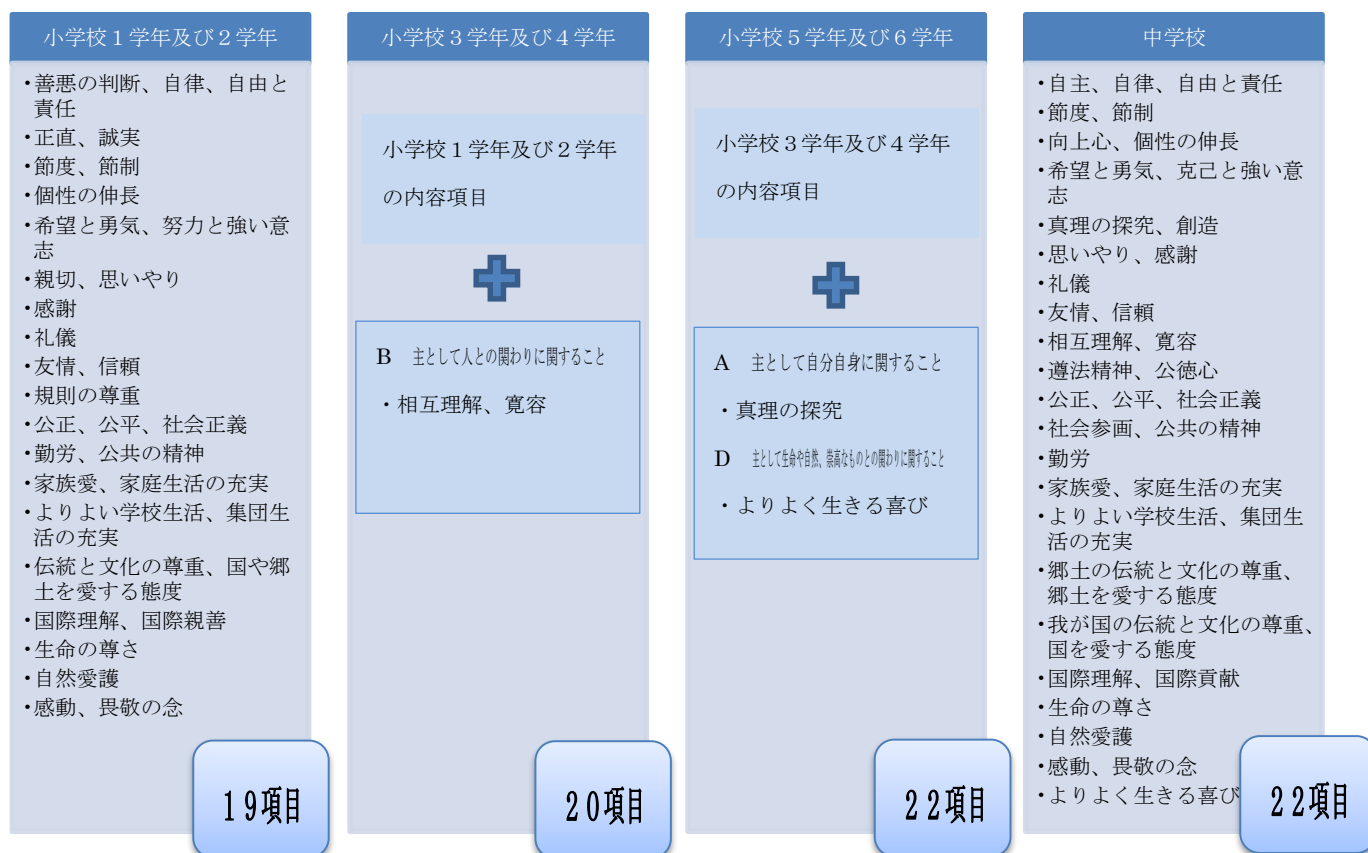
##### D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

- ・生命の尊さ
- ・自然愛護
- ・感動、畏敬の念
- ・よりよく生きる喜び

これら内容項目は、教育基本法第2条「教育の目的」に示されている内容を整理したものです。斜体は小学校追加内

## ②発達段階に応じた内容項目に改善

これらの内容項目は全部で22項目あり、低・中・高学年、中学校と取り扱う内容項目は異なっています。



また、児童生徒の発達段階に応じた内容項目の一貫性が分かるようになってきました。一例として…

### A 主として自分自身に関すること

#### 1 善悪の判断、自律、自由と責任

〔第1学年及び第2学年〕

よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。

〔第3学年及び第4学年〕

正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。

〔第5学年及び第6学年〕

自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。

(中学校)

〔自主、自律、自由と責任〕

自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編】

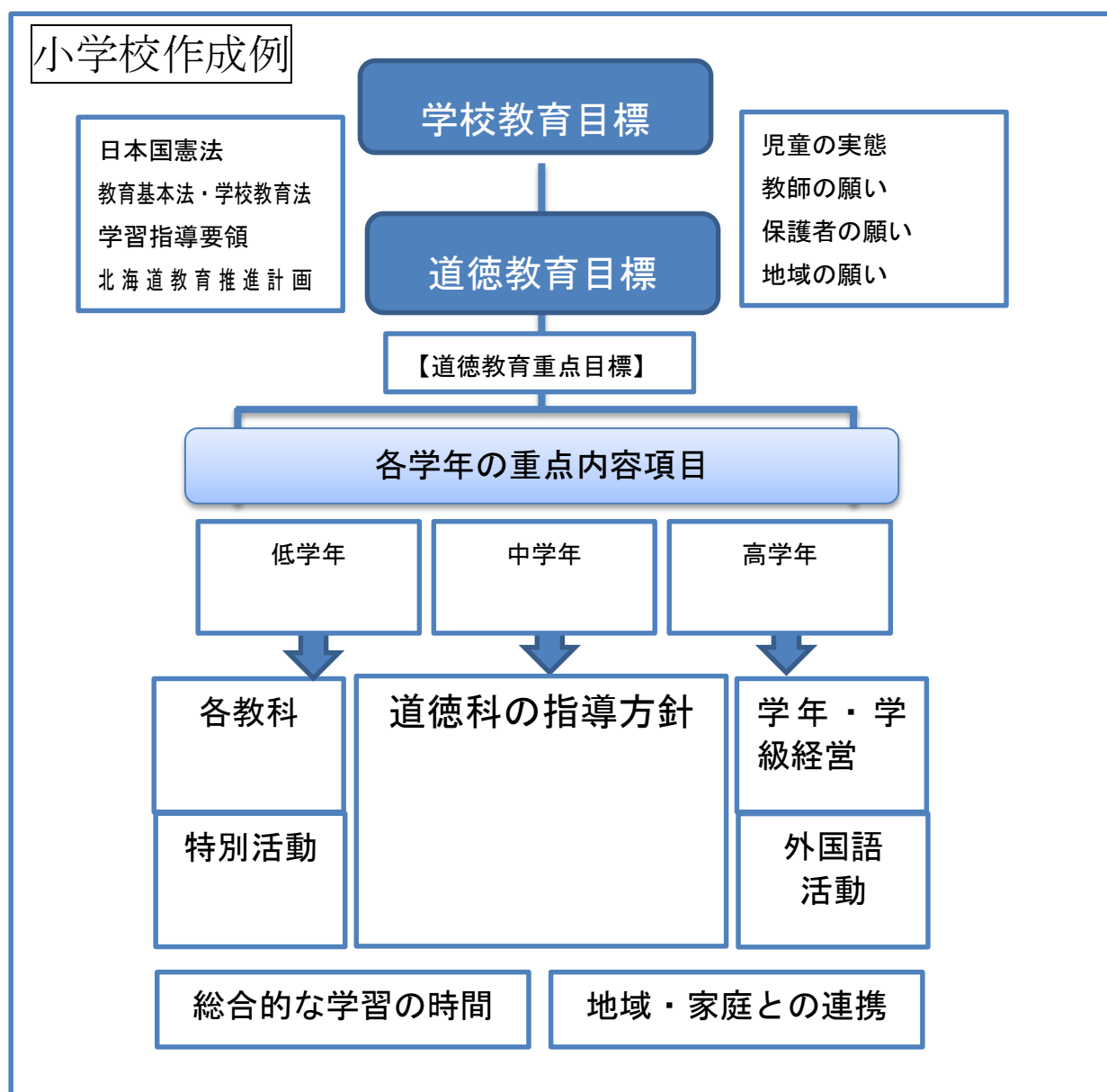
### 3 道徳教育の推進（教育課程の編成）

各校の児童生徒や地域の実態を踏まえ、道徳教育の重点を明確にした教育課程を編成します。その重点目標を踏まえて「道徳教育の全体計画」「道徳の全体計画（別業）」「道徳科の年間指導計画」を作成します。

道徳教育推進教師が中心となり、すべての教職員の協力の下、これらの環境整備をしていきます。

#### （1）道徳教育の全体計画

学校教育全体で道徳教育を推進していくという視点から、各教科などとの関わりや学年・学級経営、家庭や地域との関わりなどを確認します。



## (2) 道徳科の年間指導計画

道徳教育の全体計画を受けて、道徳科の年間指導計画を作成します。

年間を見通した主題配列表をもとに、1 単位時間ごとの主題やねらい、展開の概要などをまとめて作成します。

### 年間主題配列表例

#### 第3 学年道徳科 月別主題配列表

回	月	週	内容項目		主題名	教材名
1	4	1	A	節度、節制	今、やるべきことは	1 テレビゲームおあずけ
2		2	C	勤労・公共の精神	だれかのために	2 ロボくんと小鳥
3		3	A	希望と勇氣、努力と闘い意志	チャレンジ	3 一分間スピーチ

### 年間指導計画例

教材名	1 テレビゲームおあずけ		P. 〇〇	
主題名	今、やるべきことは	A-3 節度、節制	指導時期	4月1週
ねらい	度を過ぎないようによく考えて行動し、節度ある生活をしようとする心情を養う。			
主題設定の理由	この時期の児童は、自分本位に行動しがちであり、その結果、問題が起きて初めて自分を振り返り、反省することが多い。自らの行動を客観視し、どのように行動したらよいかを考えて実行する態度を育てたい。			
学習活動	導入	1 好きなことをしているときの気持ちを話し合う。 ①好きなことをしているとき、どんな気持ちになったり、どんなことを感じたりしますか。		
	展開	2 「テレビゲームおあずけ」を読んで、話し合う。 ①「ぼく」は、どんな子ですか。ゴン、どんな犬ですか。 ②お使いを忘れてしまった「ぼく」は、妹の涙を見て、どんな気持ちだったでしょう。 ③壁に画用紙をはり付けながら、「ぼく」はどんなことを考えていたのでしょうか。 3 自分の生活を振り返って考える。 ①好きなことに夢中になって、やらなければならないことを後回しにしたり、やるのを忘れてしまったりしたことはありますか。		
	終末	4 教師の説話を聞く。 ①先生が子どものころ、好きなことに夢中になって大事な約束を忘れてしまった話をします。		
評価の観点	・壁に「テレビゲームおあずけ」と書いた画用紙をはったぼくの気持ちを考えることを通して、節度ある生活の大切さに気づくことができたか。(ワークシート) ・役割演技は、価値を把握するのに効果的であったか。(観察)			
わたしたちの道徳	学習後にP. 12-15を読み、自分の生活を自分でコントロールする大切さについてさらに考えさせる。			
関連	[学級活動]「基本的な生活習慣の形成」と関連させ、時間の使い方などについて指導する。 [家庭との連携] 学年便りや保護者会の話題に取り上げ、啓発する。			

### (3) 道徳教育の全体計画（別葉）

道徳教育の全体計画を効果的に機能させるようにするために、「道徳教育の全体計画（別葉）」を作成し、他の教育活動との関連を考慮して意図的に配列していきます。

この別葉により、道徳科が各教育活動における道徳教育の要として目標を達成するために、補ったり（補充）、深めたり（深化）、相互の関連を考えて発展させたり統合させたり（統合）する役割を明確にします。

#### 作成例 1

学校全体で道徳教育の重点を共通理解し、一貫した指導を行う視点での作成

#### 〔小学校 2 学年〕

道徳教育の重点目標	自他の生命を大切にし、他者とよりよく生きようとする児童の育成
第 2 学年重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。(A-5 希望と勇気、努力と強い意志)</li> <li>・友だちと仲良く助け合う。(B-9 友情、信頼)</li> <li>◎生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。(D-17 生命の尊さ)</li> </ul>

	主な体験活動や実践活動	道徳科	その他
4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1年生を迎える会</li> <li>&lt;道徳の内容との関連&gt;</li> <li>2年生としての自覚をもち、新しく入ってきた1年生を温かい気持ちで迎えようとする。</li> </ul>	B-6 親切、思いやり 「花のかんむり」	

※平成 27 年度道徳教育推進教師等研究協議会資料 P 29 から引用

#### 作成例 2

道徳科と各教科等との連携を強化する視点での作成

#### 〔小学校 1 学年〕

	各教科					
	国語	算数	生活	音楽	図工	
A-1 善悪の判断、自律、自由と責任			いっしょにあそぼう【4月】 ・正しいと判断し、勇気をもって進んで取り組める態度を育てる。			
A-2 正直、誠実	しらせたいな 見せたいな【10月】 ・自分の伝えたいことを堂々と伝えることの大切さを学ぶ。		いっしょがいぬ【11月】 ・見学に行った場所でのマナーについて学ぶ。	みんなのおんがくパーティー【12月】 ・自分の歌声と同じように友達の歌声を大切にすることを学ぶ。		



## (4) 各学級の指導計画

また、年間指導計画に応じて、それぞれの学級で児童生徒の実態に応じた指導計画にするために、学級ごとの計画を作成することも考えられます。

### 作成例



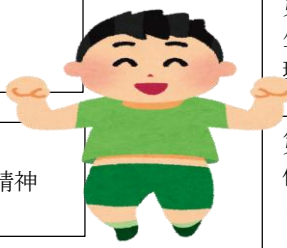
## 4 道徳科の授業づくり

### (1) 道徳科の授業

#### ① 道徳教育の目標に基づいて行う

道徳教育が目指すものは、教育基本法第1条、第2条第1項から第5項に示された姿です。したがって、道徳科でも、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが目標となります。

**「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」(第1条)**

第1項 知識と教養、真理を求める態度 豊かな情操と道徳心、健やかな身体		第4項 生命を尊び、自然を大切にす態度 環境の保全
第2項 個人の価値の尊重、自主及び自律の精神 職業及び生活との関連、勤労		第5項 伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛する とともに、他国を尊重し、国際社会の平和 と発展に寄与する態度
第3項 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力 公共の精神、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度		

#### ② 道徳性を養うために行う

##### ア 道徳的諸価値について理解する

- ・よりよく生きる上で「大切なことだ」という理解
- ・大切なのはわかっているけれどなかなか実現できない「人間の弱さ」の理解
- ・道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の「感じ方や考え方が多様である」という理解

##### イ 自己を見つめる

- ・これまでの自分の経験、そのときの考え方や感じ方
- ・これらを照らし合わせて、更に考えを深める  
⇒自らの成長の実感・今後の課題や目標の設定

##### ウ 物事を多面的・多角的に考える

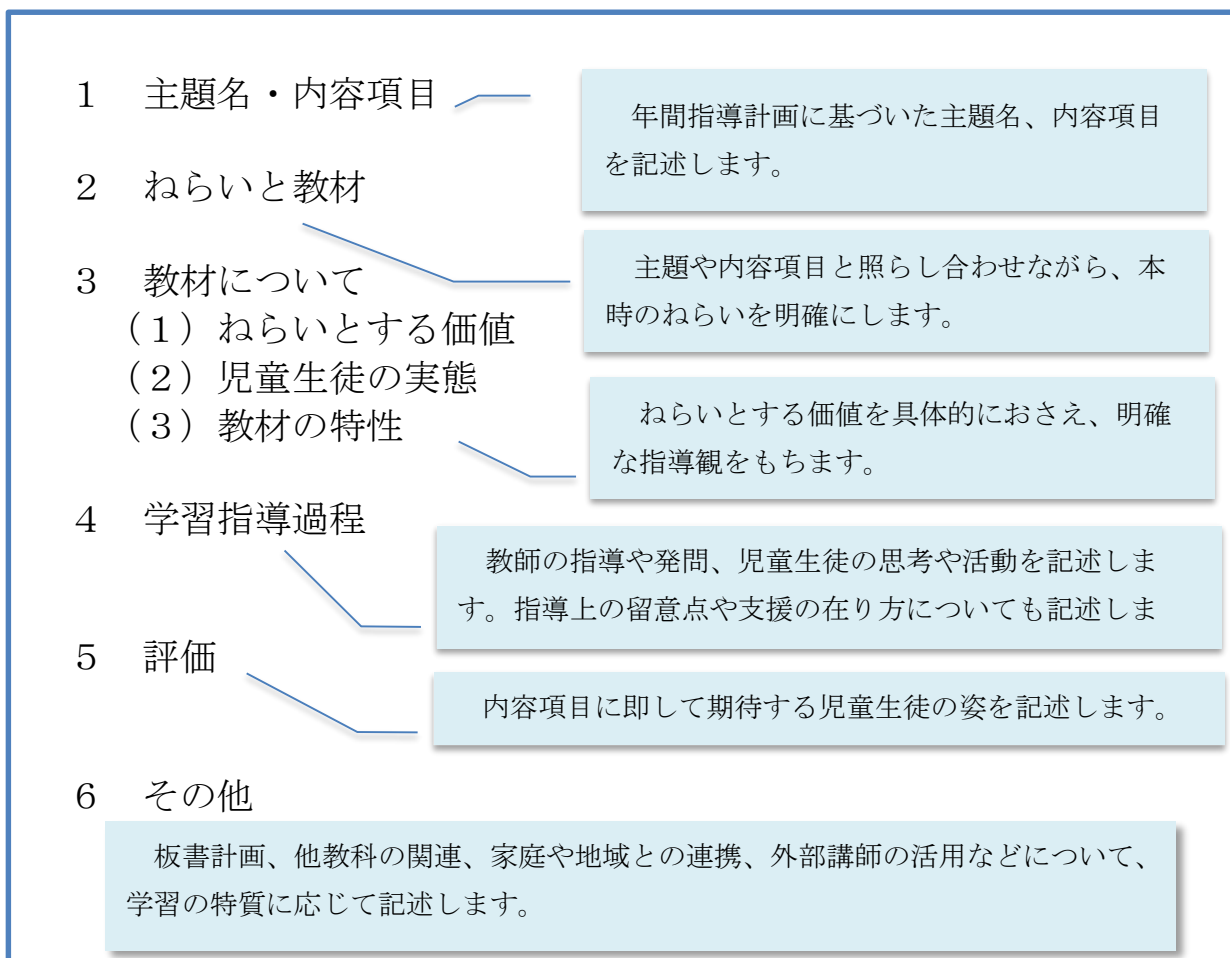
多面的・多角的に考えることで、価値理解だけでなく、人間理解や他者理解が深められる。さらに、自分で考えを深め、判断し、表現する力が育まれる。

##### エ 自己の生き方についての考えを深める

アからウの過程で、自己の生き方の考えを深めることを強く意識させる。

## (2) 学習指導案

道徳科の学習指導案は、年間指導計画に基づいた内容項目を指導するために、思考を整理したり重点としたい学習活動を明確にしたりすることを目的として作成します。ねらいを達成するために、道徳科の特質を生かして、何をどのような順序・方法で指導し、評価し、さらに本時以外の活動にどのように生かすのかなど、学習指導の構想を表現していきます。児童生徒や学年・学級の実態を踏まえ、作成することが大切です。



### (3) 基本的な指導過程

道徳科の指導過程には、特に決められた形式はありませんが、一般的には、他教科の学習と同様に「導入⇒展開⇒終末」という3段階を設定することが広く行われています。

#### 導入

- 主題に対する児童生徒の興味・関心を高め、ねらいとする価値への方向付けを行います。

#### 教材提示の工夫

児童生徒に学ぶ目的意識、必要感をもたせることが大切です。

#### 展開

- 主題のねらいを達成するための中心となる段階です。
- 中心的な教材の活用によって、児童生徒の道徳的価値について自覚を深めます。

#### 発問の工夫

児童生徒の思考の流れを予想し、流れに沿った発問や考える必然性のある発問、切実感のある発問を心がけることが大切です。

#### 板書の工夫

教師の伝えたい内容へ児童生徒の意識を向ける、時間的な順序や構造などを示すなどの機能を意識して、構成することが大切です。

#### 言語活動の工夫

書くことや話し合うこと、動作化や役割演技などは、思考を促したり、深めたりするのに有効です。目的に応じて、多様な言語活動を取り入れることが大切です。

#### 終末

- ねらいとしていた道徳的価値に対する思いや考えをまとめます。
- 教師の説話などを聞いて、道徳的価値への思いをあたためます。

#### 説話の工夫

道徳的価値を児童生徒が一層主体的に考えられるようにしようとするものです。児童生徒の心情に訴え、深い感銘を与えられるように工夫することが大切です。

#### 「私たちの道徳」の活用

「私たちの道徳」の書き込み部分を活用し、学んだことを深く心にとどめたり、これからの自分について考えたりできるようにすることが大切です。